

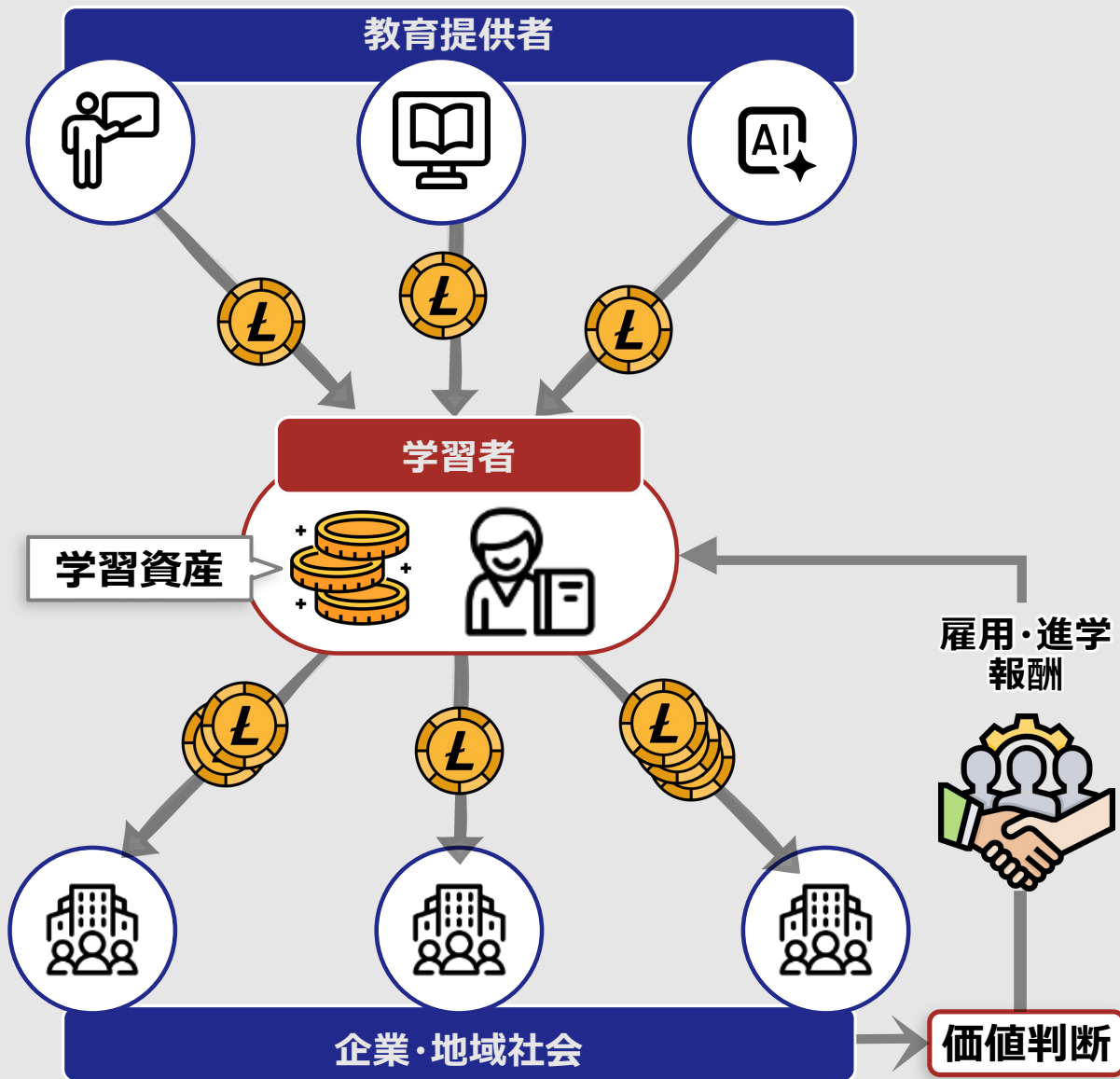


学びは誰のものか ラーニングトークンが拓く教育 の未来

コンソーシアムTIES 附置研究所主任研究員（大阪教育大学 特任教授）

堀真寿美

国立大学法人
大阪教育大学



未来の社会

学びが報われる社会

ラーニングトークン

学んだ証を

本人が管理し

社会で使える

「学習資産」

とする仕組み

ラーニングトークンにつながる 先行実践と社会的要請



2014年：先行実践

OUJ-MOOC

- 放送大学のMOOC
 - The Open University of Japan
- 2014年配信開始のJMOOCプラットフォームの一つ
- マッシュアップ電子書籍
 - YouTube, Facebook, Moodle
- 世界に先駆けてOpen Badgeを採用



A screenshot of a Moodle course page for 'NIHONGO STARTER LESSON 1'. The page features a video player with a 'Can-do' title and a 'Can-do Exchange' section. There are social media icons for Facebook, YouTube, and Moodle. A 'TaP! CHILO Community' icon is also present. The page includes a quiz section with multiple-choice questions. A large red arrow points from the quiz to a gold badge that says '4 NIHONGO STARTER'. The badge is surrounded by a laurel wreath.

マイクロクレデンシャルの原型を作り 学びを「見せる証」にした



1冊 = 1スキル
= 1小バッジ



全バッジを集めると大バッジ

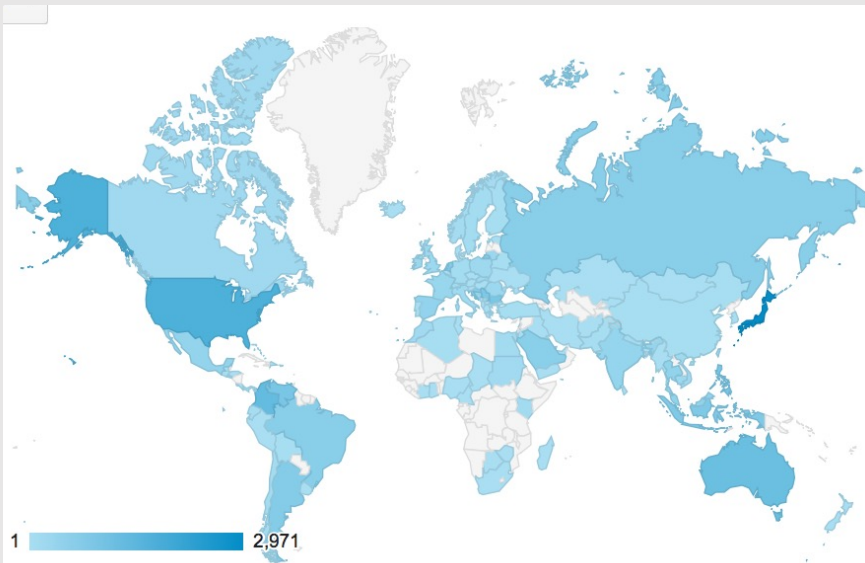


Facebook で
自慢する学習者

AAOU香港大会 Silver Medal 受賞

世界に学びを届ける仕組みとして評価

115国 28,078人 (のべ) が学習
(2015年6月20日現在)



2023年：先行実践

OZONE-EDU

大阪教育大学と愛知教育大学の 共同運営

- 2023年当初は「OKUTEP」という名称
- 教員の生涯にわたる学びを支援

受講登録者数

12,000名超

(2026年3月時点)

利用機関数

13教育委員会
学校法人等

(2026年3月時点)

提供科目数

74 科目

(2026年4月時点)



学びを他機関が「認める証」にした

マイクロコンテンツ

- 講義ビデオ (10分)
- 講義ビデオ (10分)
- 講義ビデオ (10分)
- 課題・演習 (15分)

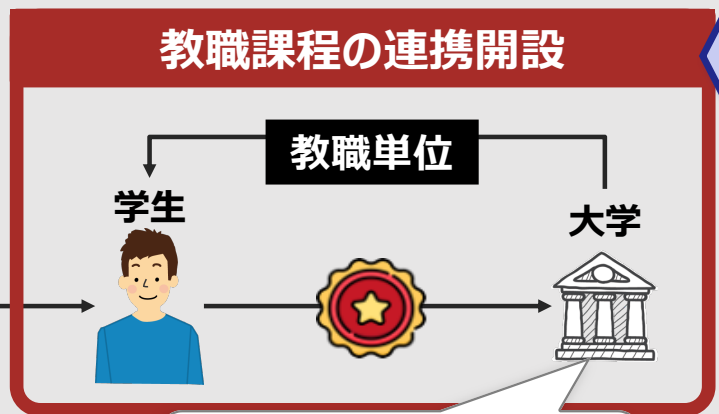
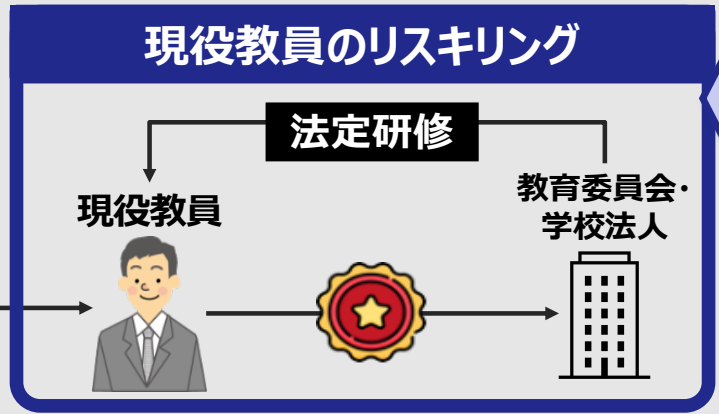
- 講義ビデオ (10分)
- 講義ビデオ (10分)
- 課題・演習 (15分)

スタンプ
バッジ



マイクロクレデンシャル

修了バッジ



札幌大学
大阪工業大学
公立千歳科学技術大学

オープン エデュケーション

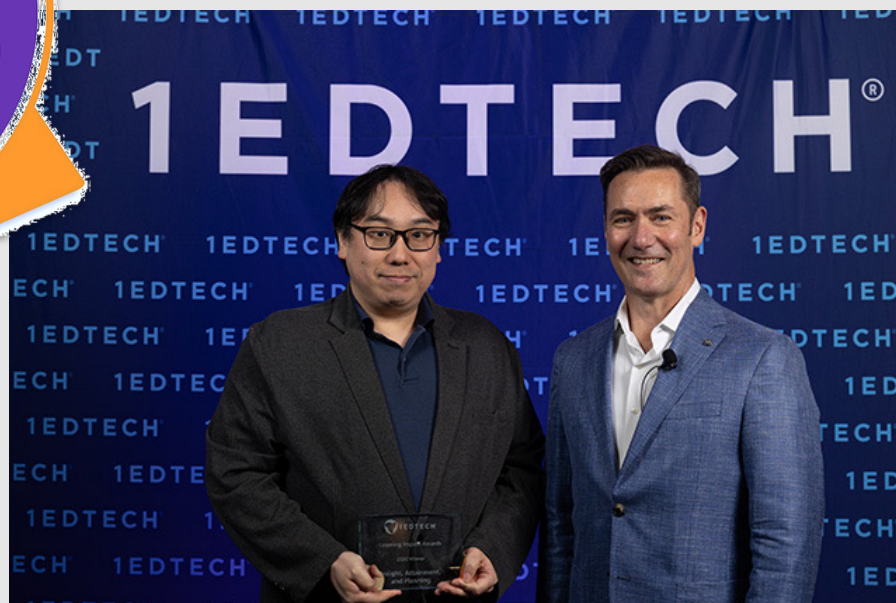
デジタルバッジ
↓
「スキル」に認定

連携開設

デジタルバッジ
↓
「単位」に認定

1EdTech Educational Insight, Attainment, and Planning 最優秀賞

学びを認定し、制度につなぐ仕組みとして評価



2040年問題に直面する大学

大学進学者数が63万人から46万人に※

日本の高等教育の危機

定員割れ

16万人分の定員削減



経営破綻

中小私大・地方大学から、廃校・統廃合



教育の質低下

収入減少に伴い、教員確保、科目開講が困難



知的インフラ喪失

地方の大学が消え、地域の教育機会が喪失



高等教育の構造改革が急務

※令和6年度 文部科学白書

特集1 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～

Copyright © 2026 Masumi Hori 10

社会的要請

構造改革を支えるデジタル証明書

守りの構造改革



攻めの構造改革

経営体制の再構築

統合・再編・縮小・撤退を含む
経営体制へ

制度規制の再設計

自前主義を見直し、
大学間で教育を支え合う

学習者層の拡張

社会人・留学生・地域人材へ
対象を拡大

社会接続

大学教育の
企業・自治体・地域接続

デジタル証明書のもたらす効果

大学が消えても証明は残る

成績・単位の確認コストを最小化

学習者自身が生涯の学びをまとめて管理

学習成果が社会につながる

Learning Token^

残された最後の壁：証明された学びを社会的価値に変えること

2014



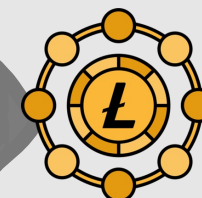
2023



2026~

高等教育の
構造改革

Learning
Token



見せるProve

認めるApprove

変えるImprove

社会を動かす

証明される
もの

学んだこと

マイクロレデンシャル

大学教育

教育と社会

得られたもの

学習者中心
世界に学びを届ける

学びの価値化

大学の価値化

社会的価値

規格の乱立，社会を動かさない

2014



2023



2026



1EdTech
Open
Badge

教育系デジタルバッジ

2013
OB1.0

2016
OB2.0

2024
OB3.0

規格の乱立

2019
VC 1.0

2022
VC 1.1 / DID

2025
VC 2.0

W3C VC

汎用的な検証可能証明モデル

2021

ISO18013-5

2023

ISO23220

2024

ISO18013-7

ISO mDL / mdoc系

運転免許証・本人確認

IETF SD-JWT VC

選択的提示可能なVC

SD-JWT
RFC化

SD-JWT VC
Draft

具体的な実装

EUDIW 欧州デジタルIDウォレット
SD-JWT VC, mdocを採用

OID4VP / OID4VCI Final

大学を越えて学びをつなぐ 共通証明書基盤を目指して

アカデミックVCプロジェクトの始動

ミッション

学習成果を、社会の意思決定に活用できる情報へ



大学

学生の学びを
生涯にわたり
支援する



学生

学びを生涯の
資産にする



社会

学習成果を
効果的に
活用する

ビジョン

大学共同利用の証明書基盤の構築

持続性の確保

廃校・事業者撤退があっても
証明が失われない設計。

公共性・中立性

特定民間事業者に依存し
ない公的運営体制。

学習者中心

学習者が自身の学修歴を一元
的に管理・活用できる仕組み。

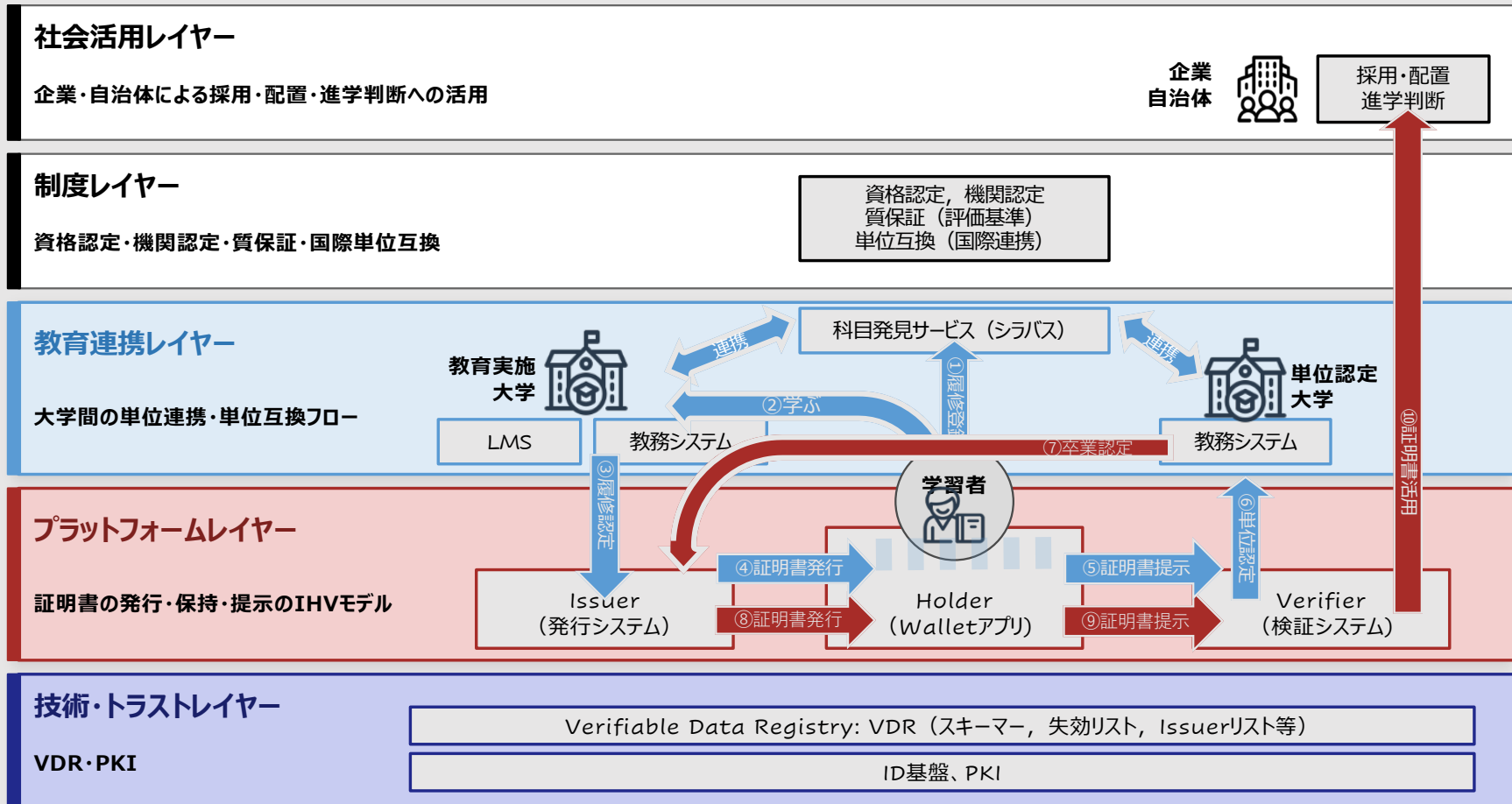
コスト分散

共同利用で、各大学の導
入・運用コストを大幅削減。

設計原則

証明書基盤の全体像：5つのレイヤー

青フロー：単位互換 橙フロー：証明書発行・提示

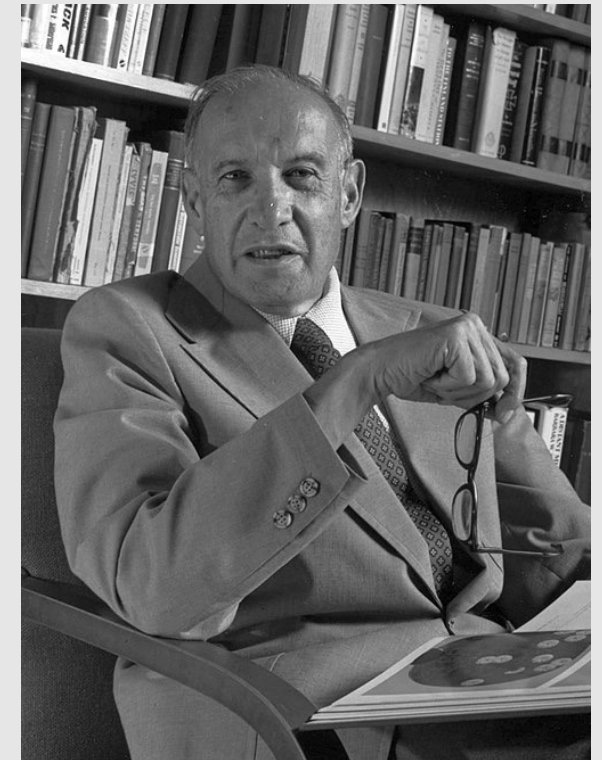


ロードマップ



**知識は、相続も遺贈もできない……
一人ひとりが、自ら学び、
自ら獲得し直さなければならない。**

ピータードラッカー, “The Next Society”, 2001.



学術デジタル・ クレデンシャル 円卓会議2026

—— つなぐ信頼、ひらく未来 ——
持続可能で相互運用可能なデジタル・クレデンシャル基盤の実現に向けて

共通領域とサービス領域 —— その役割分担を、共に描く

<p>信頼の共通基盤を考える トラストフレームワーク、標準規格、ガバナンスなど、共有すべき基盤を議論</p>	<p>多様なステークホルダーが集う 教育、基盤、標準化、ベンダなど多様な立場から俯瞰し、対話</p>	<p>役割分担を明確にする 大学等の当事者が関与すべき共通領域と、民間によるイノベーション領域を切り分け</p>	<p>重複を避け、未来を拓く 重複の再発明や重複投資を防止、持続可能で相互運用可能な基盤の実現へ</p>	<p>円卓で、共に創る 円卓の対話から、次のアクションと協働の礎を築く</p>
---	---	---	---	--



開催日時：2026年7月15日（水）14:00～19:30（受付開始 13:30～）
 主催：一般社団法人OpenIDファウンデーション・ジャパン
 （会場提供：国立情報学研究所）
 会場：学術総合センター（一橋講堂/中会議室）
 実施形式：オンサイト（現地参加）or オンライン
 参加条件：無料 / 事前登録制